

アクションを起こそう！SDGs

2021.11.1

4

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



世界の課題解決に向けて2015年に国連で採択された持続可能な開発目標「SDGs（エスディーズ）」。「貧困をなくそう」「飢餓をゼロに」など17のゴール（目標）を掲げ、2030年までに達成することを目指し、国や企業でさまざまな取組が行われています。

長門市でも今年の7月7日に「SDGs キックオフ宣言」を行い、持続可能なまちに向けた取組がスタートしました。今回の特集では、SDGsの概要や具体的な取組を紹介します。持続可能なまちのために一人ひとりができることを一緒に考えていきましょう。

SDGsって何？

SDGsは「Sustainable（サステイナブル）Development（ディベロップメント）Goals（ゴールズ）」…持続可能な開発目標の略で、地球を持続可能でより良くすることを目的とした世界共通のゴールです。2030年度の達成を目標に17のゴールとさらに具体的な169のターゲット（狙い）で構成されており、「誰ひとり取り残さない」を基本的な理念とし

ています。

SDGsは環境問題の目標と思われるがちですが、17のゴールが「経済」「社会」「環境」の3つの側面から構成され、「経済」「社会」「環境」のどれか一つではなく、3つのバランスを取りながら、さまざまな問題を解決し、持続可能な社会をつくっていくことが特徴として挙げられます。

できることから始めよう

国際的な目標であることや17もゴールがあることを聞くと、規模が大きすぎて「私たちには関係ない」「何をしたいかわからない」と思う人もいるかもしれません。そういったときはSDGsの取組を自分の家族や次世代のために、より良いまちや社会を残すことと考えてみてはいかがでしょうか。

例えば、食材の廃棄が少なくなるよう調理したり、水道の蛇口をこまめに閉めて節水に努めたりすることも、豊かな暮らしを将来に向けて持続していくための取組となります。

SDGsの取組では17のゴールにすべ

て取り組む必要はなく、一人ひとりが一つの行動を起こすことで連鎖が生まれ、社会全体で複数のゴールの達成につながります。

私たち一人ひとりのアクション（行動）がまちの未来を変える

豊かな自然に恵まれた長門市を残していきたい、子どもたちが将来にわたって住み続けられる長門市でありたい。持続可能な長門市の未来を創っていくのは、私たち一人ひとりの小さなアクションの積み重ねです。例えば、マイバックを持ち歩くことについても、一人のレジ袋削減量はわずかでも、100人、1000人、1万人が行えば、環境への負荷を抑えることにつながります。

まずは自分自身ができることを見つけ、アクションを起こしてみる。小さな力の積み重ねが大きな未来を創りだします。一人ひとりができることを探して、まずはアクションを起こしてみませんか。

17のゴール(目標)	私たちがとることができる行動(例)
1 貧困をなくそう	使わなくなった服やおもちゃを寄附する。募金活動に参加する。
2 飢餓をゼロに	食べ残しをゼロにする。栄養バランスの良い食事を学ぶ。
3 すべての人に健康と福祉を	通勤時の移動手段を徒歩や自転車に。
4 質の高い教育をみんなに	学校、地域、家庭が連携して子どもを育てる。
5 ジェンダー平等を実現しよう	家事のバランスを考えて分担する。ジェンダー平等に関心を持つ。
6 安全な水とトイレを世界中に	油は排水溝に流さずに拭き取る。水道の蛇口をこまめに閉める。
7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	公共交通機関を利用する。使用していないコンセントは抜く。
8 働きがいも経済成長も	地産地消産品を買う。 残業時間を見直し、積極的に休暇を取得。
9 産業と技術革新の基盤をつくろう	クラウドファンディングでプロジェクトを支援する。
10 人や国の不平等をなくそう	いじめや差別をしない、させない。多様性の理解を深める。
11 住み続けられるまちづくりを	地域の自治会活動に参加する。地域の魅力について考える。
12 つくる責任 つかう責任	マイバッグ、マイボトルを持参する。食材を使い切る。
13 気候変動に具体的な対策を	緑のカーテンを設置する。簡易包装、詰め替え商品を買う。 電気をこまめに消す。
14 海の豊かさを守ろう	海や川の生き物に関心を持ち、調べてみる。 レジ袋やプラスチック製品の使用を控える。
15 陸の豊かさを守ろう	環境に配慮した製品を選んで購入。 飼えなくなったペットを捨てない。
16 平和と公正をすべての人に	お互いの価値観や文化の違いを認める。 戦争や平和について学習する。
17 パートナリシップで目標を達成しよう	S D G sに関するイベントに参加する。

食品ロスを解消しよう

大津緑洋高校英語部の活動

大津緑洋高校英語部では、性の多様性と多文化共生の理解を深める取組や絶滅のおそれのある植物を復活させる取組、海の豊かさと文化を守る取組などS D G sを念頭に置いた活動をしています。

例えば、ブロッコリーの茎やきのこの石づき、玉ねぎや人参の皮などの多くは家庭で普段食べられずに捨てられています。英語部の生徒は、捨てられてしまう食材や形が不揃いで販売できない野菜を利用することにより、「フードロスを減らすことはできないか」と考えました。

市内の民間企業と連携して研究を進め、考案したのが、食べられずに捨てられてしまう食材を豆腐と混ぜ合わせて作るハンバーガーです。まだまだ開発途中ですが、フードロスの削減につながるよう取り組んでいます。



▲食品ロス削減のためのハンバーガーを開発中

長門の美しい海を守ろう

子どもたちも学んでいます

日本海には漂着ごみが多く、そのうちの8割がプラスチックごみです。プラスチックごみは鳥や魚がえさと間違えて食べたり、海の環境を汚したりしていることが問題となっています。

今年6月に日置地区の小中学校の児童生徒が「プラスチックモンスターをやっつけよう」と題したオンライン学習会に参加しました。

日本の海や川のプラスチックごみの現状や有害な物質とくっつきやすいプラスチックモンスターをやっつけるためには、プラスチックごみを減らすことが第一であることを学びました。長門市の美しい海を守るために、自分たちができることとして、「ポイ捨てをしない」、「ごみ拾いに参加する」、「なるべくプラスチックを使わない」などの意見が発表されました。



▲海で散乱していたプラスチックごみが展示された